

事務事業計画書兼評価表(A表)

1 事務事業に関する基本情報

				令和	2	年度
事業番号	52		事業名	地方創生推進事業		
担当課	企画課地方創生室	担当係	地方創生推進係	担当者	入江 則行	
総合計画に最も関連ある施策	施策	5	活力ある産業づくり(産業、観光、雇用)	連絡先	76-0213	
	施策体系	4	連携・交流の推進	事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 継続	
	主な事業	地方創生推進交付金事業(1市6町、若桜鉄道)				
予算区分	款	2	総務費	事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 八頭町 <input type="checkbox"/> その他	
	項	1	総務管理費			
	目	16	地方創生対策費	計画期間	開始	-
	事業	52	地方創生推進事業		終了	-

2 事務事業の概要

事業の対象	誰(何)に対してこの事業を行うのか記載。 町民		
事業の目的	誰(何)をどうするためにこの事業を行うのか記載。 人口減少を抑制するため、各事業について近隣自治体と連携して取り組む。		
事業の内容	事業の規模や業務量などを具体的に記載。 【1市6町連携事業】麒麟のまち圏域観光交流人口増加対策事業、情報発信事業 【若桜鉄道連携事業】若桜鉄道を活用した観光推進事業		
事業の手段	どういった方法、手順で事業を進めるのか、具体的に記載。 【1市6町連携事業】観光交流人口の増加対策及び移住促進について、各構成市町が連携して事業を実施するもの。八頭町においては、様々なイベント事業等による観光情報発信などの取組を実施し、観光振興を図る。 【若桜鉄道連携事業】若桜町と連携して事業実施するもの。若桜鉄道車両の観光列車化を行うことにより観光客誘客を図るとともに、オリジナルグッズ等を活用したPR事業を展開する。		
事業の成果到達点	どんな成果を得たいのか、または、何がどうなれば達成か、具体的に記載。 観光交流人口の増加を通じた域内の活性化等による地方創生の実現。		
根拠法令等	1	1. 法令(義務) 2. 法令(任意) 3. 条例 4. 規則・要綱等 5. なし	法令等名→ 地域再生法 地方創生推進交付金交付要綱

3 活動指標、成果指標

活動指標		単位	事業の手段を図るものさし
	A	人	観光入込客数
	B	件	ホームページアクセス数
	C		
成果指標		単位	事業の成果、到達点を図るものさし
	A	人	観光入込客数
	B	件	ホームページアクセス数
	C		
	D		

4 コスト

区分		単位	H29年度	H30年度	R1年度		R2年度		R3年度
			実績	実績	目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	A	人	534,014	691,134	470,000	739,000	750,000	539,000	750,000
	B	件	234,729	300,284	300,000	306,725	315,000	320,485	330,000
	C								
	D								
成果指標	A	人	534,014	691,134	470,000	739,000	750,000	539,000	750,000
	B	件	234,729	300,284	300,000	306,725	315,000	320,485	330,000
	C								
	D								
トータルコスト		千円	62,903	60,080	85,418	83,752	50,720	41,244	47,316
担当職員数		人	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
職員人件費		千円	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000
事業費		千円	38,903	36,080	61,418	59,752	26,720	17,244	23,316
事業費 財源内訳	国庫支出金(交付金・補助金)	千円	13,612	12,555	18,187	20,570	13,149	9,654	11,591
	県支出金(交付金・補助金)	千円	431	157					
	地方債(借入金)	千円	12,700	12,300	30,400	25,600	3,500	3,400	3,500
	事業収入(使用料・参加費等)	千円							
一般財源(単町費)		千円	12,160	11,068	12,831	13,582	10,071	4,190	8,225

事務事業計画書兼評価表(B表)

5 実施活動内容・結果及び成果(到達点)(D)

令和 2 年度

実施活動内容・結果及び成果(到達点)	<p>実施活動内容・結果(何をしたのか)</p> <p>・人口減少対策、地方創生に取り組むため、平成27年9月に「八頭町総合戦略」を策定。4つの重点取組事項を柱に計画に沿った取り組みを実施し、活気あるまちづくりの推進に向けて大きな成果をあげた。 ・令和2年3月に「第2期八頭町総合戦略」を策定し、「第2次八頭町総合計画」「八頭町人口ビジョン」を踏まえ、今後5年間の政策目標や主な施策を示した。人口減少社会において、定住人口の減少を可能な限り食い止めるとともに、たとえ人口が減少しても住民がその地域に将来にわたって安心・安全で心豊かに住み続けられる地域づくりに取り組むこととしている。</p> <p>内容・結果に基づく成果(どうなったのか)</p> <p>「第2期八頭町総合戦略」では5つの重点取組事項を柱に26の目標指標(KPI)を設定しており、令和2年度では11の項目でKPIを達成した(達成率42%)。本町では産・官・学・金・言・労などで構成する「八頭町総合戦略検証委員会」を設置して、戦略の効果達成等を検証している。コロナ禍で大きく影響を受けている事業もあるものの、出生数や起業数、新規雇用などで目標を大きく上回るなど、戦略に基づく地方創生への取り組み成果について評価を受けている。</p>
---------------------------	---

6 事務事業の評価(C)

評価項目	評価点	点数	チェックポイント	判断理由・評価コメント(具体的に記入のこと)
必要性 (町民ニーズ)	20	20	①必要性が高い	令和2年度から5か年の第2期八頭町総合戦略を策定・実行し、人口減少の緩和と地方創生を図るため、多分野にわたる様々な施策を展開する必要がある。
		13	②どちらかと言えば必要性がある	
		7	③必要性が低い	
		0	④必要性がない	
妥当性 (町が行わなければならないか)	20	20	①町が行わないといけない	国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ、様々な機関が連携して施策の実現を図る必要がある。
		13	②どちらかと言えば町が実施	
		7	③妥当性が低い	
		0	④妥当性がない	
効率性 (コスト削減の余地は無い)	13	20	①効率的である	様々な機関と連携し、情報共有と施策実現の速度性を考慮しながら効率的に実施する必要がある。
		13	②どちらかと言えば効率的である	
		7	③どちらかと言えば非効率的である	
		0	④非効率的である	
緊急性 (他事業に優先し実施する必要があるか)	20	20	①緊急性が高い	都市部一極集中の是正、人口減少対策は国をあげての喫緊の課題と捉え、地域の特性に即した課題解決を図る必要がある。
		13	②比較的緊急性がある	
		7	③緊急性が低い	
		0	④緊急性がない	
成果 (目的の達成状況)	13	20	①成果が上がっている	本事業評価で成果指標としての観光入込客数では、コロナが極めて大きく影響し減少した一方で、ホームページアクセス数は増加しており、コロナ禍における情報収集手段として機能した要因と考えられる。
		13	②どちらかと言えば上がっている	
		7	③どちらかと言えば上がっていない	
		0	④成果が上がっていない	

一次評価	事業の方向性	点数	評価点合計	判定に至った理由
1	1、拡充する	80点以上	86 評価点による判定	「第2期八頭町総合戦略」では5つの重点取組事項を柱に26の目標指標(KPI)を設定しており、令和2年度ではコロナ影響を受けながらも、11の項目でKPIを達成した(達成率42%)。出生数や起業数、新規雇用などで目標を大きく上回るなど、引き続き子育て支援や雇用促進等に取り組むとともに、コロナ禍でも各機関が連携し工夫しながら、着実な地方創生の推進に取り組むものとする。
	2、現状維持	60～79点		
	3、改善・効率化し継続	50～59点		
	4、見直しの上縮小する	40～49点		
	5、終期設定し終了	30～39点		
	6、休止	20～29点		
	7、廃止	19点以下		

二次評価	事業の方向性	判定説明・意見
1	1、拡充する	本事業では、総合戦略策定という本町の地方創生施策実施において中心となる計画の策定をはじめ、八頭町新たな魅力発信事業や若桜鉄道を活用した観光推進事業など地域振興や地域活性化に資する事業を展開しており、当該事業の重要性が認められるところである。特に、「八頭町総合戦略」策定以後は、人口減少の抑制に資する事業の重要性がより一層認識されているところであり、令和2年度には第2次計画を策定し、アンケートを基に求められる「八頭町の将来像」の実現に向けて、子育て支援タクシー助成制度の創設やスマート農業の推進など新たな事業の実施へと展開をみせている。若桜鉄道を活用した観光推進事業は、麒麟のまち圏域自治体との連携はもとより、観光総務費における観光関連事業や観光協会実施事業など他の取組との連携により、包括的に取り組むことで観光客数の増加・町PR事業推進を図り、効果的かつ効果的に行っていただきたい。今後も、事業実施に当たっては、効果・成果を念頭に置き、最良の手法を選択するよう努められたい。
	2、現状維持	
	3、改善・効率化し継続	
	4、見直しの上縮小する	
	5、終期設定し終了	
	6、休止	
	7、廃止	

7 問題点及び今後の課題・方向性(A)

問題点	<p>事業活動に当たり、一番の問題と捉えていること。重点的に手当てする事柄、改善点、工夫したい箇所</p> <p>コロナ禍により、成果指標となる観光入込客数では特に大きな影響を受けている。観光インバウンド等、従来の手法によりがたいものをいかに転換し、持続的な施策としていけるかが課題と捉えている。</p>
今後の課題・方向性	<p>上記問題点を解決していくため、次年度どんな活動を展開していくのか(課題)</p> <p>自然環境に恵まれ、密を回避できる本町の観光素材を磨き上げるとともに、情報発信を積極的に実施し「関係人口」の創出・拡大に取り組む。</p>